

町史のひとこま

— 河津筑後守貞重 —

高島居城址のある竹城山（標

ある。天智天皇と天武天皇の生

母にあたる。あまりにも古い話

なのである。

高二八一・四メートル）の山頂
付近は『高鳥居』の名で呼ばれて
きた。それが転じて城の名とな
もなった。

『高鳥居』という地名の起
りについては、次のような説を

唱えている人がいる。

昔（といつても、奈良時代以
前のことだが）若杉山太祖神社
に参拝する道は、今と違い、太
宰府から宇美・須恵を経て峰伝
た。以来、この地は『高鳥居』
と呼ばれるようになった。▼合
屋武城著『筑前若杉村郷土誌』
による。

実を言うと、この説の当否を
判断する材料を私はもたない。

斎明天皇は、初め皇極天皇とい
つた方で、七世紀半ばの女帝で

九州ノ探題平兼時ニ属テ、長州

刀を作つてささげるならわしが
いる。これは、おそらく『河津
伝記』の記述によつたもので、
こちらの方には『永仁元年三月

江戸時代には、祈願する人は木

のはじめなるべし」と書かれて
いる。

高鳥居城を初めて築いたのは

河津筑後守貞重である。江戸時
代の地誌『筑前国統風土記拾遺』
には、河津が『柏屋郡小中庄の
地頭職となり始て高鳥居城を築
き住すといへり。これ此城造立

の頃よりはまだ討ち（めぐらした地
に居を定め館をかまえたが、そ
こには古くから村人の信仰を集
める靈石二個があつた。貞重に
はこれが曾我兄弟の因縁と思わ
れた。この永仁元年は、貞重と
祖先を同じくする曾我兄弟の有

名な富士のすそ野のあだ討ち（
建久四年）からちょうど百年目

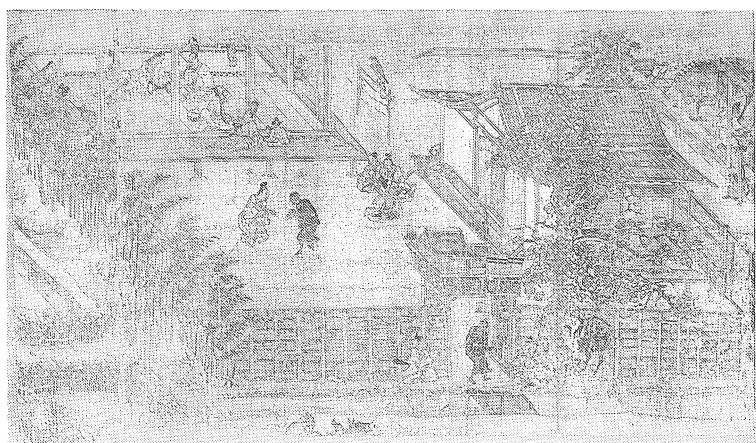
にあたつてゐるからだ。——そこ
の様子をえがいてもので、

これは建治二年（一一七六）

河津貞重の館をほうふつと
させる。

これは、柏屋町の部木八幡神
社のことで、貝原益軒によると
遍上人絵伝

〈筑前國のある武士の館〉



ヨリ始築前ニ來り、柏屋郡迫門

河内七百町賜り、高鳥井ノ墨ヲ
新築シ、探題附庸ノ城トシテ、

是ヲ守衛シ、同小仲庄ニ居住シ

……と、高鳥居城という言葉

はないものの、河津貞重による

築城が記されている。

河津は、永仁元年（一一九三）

鎌倉幕府の時の執權北条貞時か

ら柏屋郡の莊園七百町を与えら

で、鎮西奉行として九州一円を

支配した天野遠景が高鳥居に城

砦とへいを

築前に移住してきた。

當時の小仲庄（現篠栗町尾仲）

に居を定め館をかまえたが、そ

こには古くから村人の信仰を集

める靈石二個があつた。貞重に

はこれが曾我兄弟の因縁と思わ

れた。この永仁元年は、貞重と

祖先を同じくする曾我兄弟の有

名な富士のすそ野のあだ討ち（

建久四年）からちょうど百年目

にあたつてゐるからだ。——そこ

の様子をえがいてもので、

河津貞重の館をほうふつと

させる。

あつたそうだ。

古くからの伝承として、上須

を祭つたのが始めたというので

ある。

惠の須賀神社も、河津貞重の創

建とされる。高鳥居城の大手に

ある位置に城門を置き、あれ

（町誌編集委員会事務局）

あたる位置に城門を置き、あれ

（石瀧豊美）

せて須賀神（スサノオノミコト）

古くからの伝承として、上須

を祭つたのが始めたというので

ある。

惠の須賀神社も、河津貞重の創

建とされる。高鳥居城の大手に

ある位置に城門を置き、あれ

（石瀧豊美）